「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン２００８
報　告　書

２００９年（平成２１年）３月

認知症介護研究・研修センター（東京・大府・仙台）
住友生命保険相互会社

ごあいさつ

認知症の人を支援するにあたって、その人らしさを大切にするという理念が掲げられてから、認知症ケアは大きく変わってきました。認知症と正しく向き合い支え合うさまざまな活動が地域に芽吹き始め、これを広く社会に伝えていこうと、「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーンを開始して、今年で５回目となります。２００４年秋に行われた、「国際アルツハイマー病協会第２０回国際会議・京都・２００４」の場での発表会がその第１回にあたりますが、地域ケアが認知症ケアの重要な軸になっていくことを全国に、そして国際的に発信した瞬間でした。

本キャンペーンには、毎年全国各地から、認知症になっても安心して暮らせる町づくりの活動が寄せられています。今年度は各地から７０に及ぶ応募をいただき、内容も豊富でユニークな発想がみられました。認知症の人を支えるという考え方から進化し、認知症の人と共に暮らしていくという共生の理念が強くなっていることがうかがえました。この中から、昨年１１月の一次推薦委員会、同１２月の地域活動推薦委員会（最終推薦委員会）での慎重な検討を経て、今後の町づくりのモデルとなる７つの活動が「町づくり２００８モデル」に決定し、発表会にて報告されました。

本キャンペーンは優劣を競うものではありません。これまで寄せられた活動すべてに、認知症の人と地域の人々がともに尊重しあって暮らしていくための工夫や経験があふれています。報告書やホームページなどですべての活動をご紹介しておりますので、こうした貴重な積み重ねを参考にしていただき、こういった取り組みならば自分たちの町でも始められそうだ、自分たちの活動にこの工夫を取り入れよう、と取り組んでいただきたいと思います。こうした動きが広がるよう、私たちもよりいっそうの情報提供をしてまいります。

長寿社会にあって、認知症は、ひとにぎりの専門家や介護専門職の仕事というよりも、市民一人ひとりが自分のこととして考えていくことが大切です。さまざまな職種の方がそれぞれの立場を生かして、認知症になっても尊厳を保持して生きていくことを支える、しかも地域全体で支えるという仕組みをつくっていくことが必要です。ぜひ、認知症の人や家族とともに住み慣れた地域でともに暮らしていく活動をすすめてまいりましょう。

「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン２００８
実行委員長　長谷川　和夫

報告書の刊行にあたって

「『認知症でもだいじょうぶ』町づくりキャンペーン２００８」では、２００８年6月より全国で認知症の人を地域で支える活動を展開している活動報告の募集を行い、慎重な検討の結果、２００８年１２月に「町づくり２００８モデル」を決定しました。

そして２００９年3月に「認知症を知り　地域をつくる」キャンペーン報告会の場において、表彰式と「町づくり２００８モデル」団体による地域活動の発表を行いました。

本キャンペーンは、厚生労働省と認知症にかかわる各団体による国民的な「認知症を知り　地域をつくる」キャンペーンの一環として行ったものです。

各活動報告の本報告書への収録にあたっては、活動している団体および個人の表現のスタイルを尊重し、原則として原稿に改変を加えることは行っていません。このため、表記に不統一の部分があります。

「『認知症でもだいじょうぶ』町づくりキャンペーン２００８」は、厚生労働省老人保健健康増進等事業の補助金および住友生命保険相互会社のご支援をいただいて運営が行われました。あらためて感謝申し上げます。

本報告書が、全国各地で認知症の人とそのご家族を支える活動を続けておられる皆様のお役に立つように願っています。

２００９年3月

「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン２００８ 事務局

目　　次

Ⅰ.「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン２００８総括

1.「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2008実行委員長から経過報告(発表会より)　3

2.「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2008地域活動推薦委員長から総括(発表会より)　4

3. 全応募者への応援メッセージ　5

Ⅱ.「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン２００８へ全国から寄せられた活動一覧

1. 全国から寄せられた地域活動 応募一覧　13

2. 各地域報告の情報データベース(町づくりキャンペーンホームページ)の紹介　16

3.「町づくり2008モデル」一覧　17

4.「町づくり2008モデル」

活動報告(1)「仲間と共に、若年認知症をイキイキと！」　19

若年認知症グループ どんどん(神奈川県川崎市)

活動報告(2)「公立中学校の空き教室・花壇を住民と中学生が協働作業を通して認知症を正しく理解する」　33

社会福祉法人 リデルライトホーム(熊本県熊本市)

活動報告(3)「認知症メモリーウオーク・千葉」　49

第2回 認知症メモリーウオーク・千葉実行委員会(千葉県)

活動報告(4)「目黒たけのこ流・認知症ネットワーキング」　63

目黒認知症家族会 たけのこ(東京都目黒区)

活動報告(5)「親父パーティーが地域を変える！～認知症地域資源ネットワーク『NICE!藤井寺』の構築～」　77

社会福祉法人 藤井寺市社会福祉協議会(大阪府藤井寺市)

活動報告(6)「であう・ふれあう・わかちあう 認知症の人の見守り支援『あんしんメイト』」　89

NPO法人 認知症サポートわかやま(和歌山県和歌山市)

活動報告(7)「地域と共に歩む老人ホームを目指して」　105

社会福祉法人 ゆうなの会 特別養護老人ホーム大名(沖縄県那覇市)

5. 各地域活動概要　113

Ⅲ. 資料編

1. 実施要領　179

2. 推薦基準　183

3. 発表会について　185

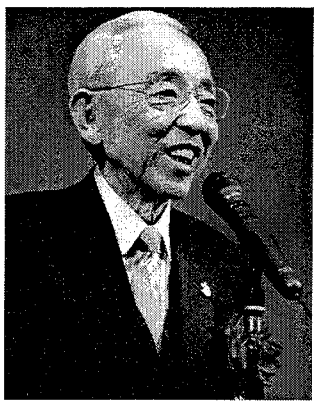
附:活動経過　187

Ⅰ.「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン２００８総括

1.「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン実行委員長から経過報告

（発表会より）

「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2008実行委員長
長谷川　和夫



本日はお忙しい中、多くの方にこのキャンペーン報告会にお越しいただきましたこと、本当に感謝申し上げます。

第１部に引き続き、第２部の「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン発表会にて、２００８年度の応募の中から堀田力委員長のひきいておられる地域活動推薦委員会よりご推薦いただいた、「町づくり２００８モデル」の７つの活動がこれから報告されようとしています。

報告に先駆け、表彰式をさせていただきますが、これは優れた活動というよりもモデルになっていただける活動ということで、ほかの選にもれた活動もふさわしいものが多くあり、委員会では非常に白熱した議論がございました。「町づくり２００８モデル」決定までの詳細は配布した資料にもございますが、今年度は全国から７０の応募がありました。

今までの応募活動と比べても、ユニークな内容であると同時に進化していることが強く感じられました。認知症のケアが認知症のその人らしさを大事にするケア、その人を中心にするケアということを理念として掲げていますが、それがだんだんと定着してきたという感じがいたします。

もう一つ大きなことは、認知症の方、あるいは家族の方を地域で支えるというよりも、地域の中で認知症の人とともに暮らしていくには地域でどういう活動をしたらいいかという、支援するということはもちろん、その人と共に暮らすという考え方になってきているのが新しい流れではないかと思います。

「認知症を知り　地域をつくる」キャンペーンでは、来年度の末、２０１０年３月までに認知症サポーターが１００万人に達するということをめざしてやってまいりましたが、堀田先生の開会挨拶でも、昨年１２月現在で７２万人に達したことから恐らく目標は達成されるだろうというお話がありました。初期の目的を貫徹するということは、大変すばらしいと思います。

来年度は一つの転機を迎えます。新しい意欲をもってこの町づくりキャンペーンが続いていきますように、志をもっていらっしゃる方はぜひ来年度も応募いただきたいと念願する次第です。本日はありがとうございました。

2.「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン地域活動推薦委員長から総括

（発表会より）

「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2008地域活動推薦委員長
堀田　力

宮島局長をはじめ、これだけ多くの皆様が長い時間にわたってじっくりと聴いて頂きました。本当にありがとうございました。

すばらしいメッセージをまとめて頂いた事務局の皆様、大変なご苦労があったと思います。本当にありがとうございます。それにすばらしい話を引き出し、深めて下さいましたプロ中のプロであります村田幸子様、町永俊雄様、ありがとうございました。

この運動が始まりまして４年、脈々と大きなうねりが起こっているのを実感して頂いたと思います。そのうねりは、だれがつくりだしたものでもなくて、それぞれの地域の草の根からいろんな形でわきあがり、一つの方向にまとまりつつある。これがすばらしいと思います。そういう自然な動きの中で、期せずして一つの胎動があらわれつつある。長谷川和夫先生がご指摘されましたように、認知症の方というのはお世話をする対象ということではなく、その人である。対等な仲間であると認識してつき合っていこうという、そういう自覚が生まれ、また、本人からもそうしてほしいというメッセージが出てきている。運動がたしかな方向に向かっていることを実感いたします。多くの認知症の方々が本当にその人らしく尊厳をもって暮らすことができるようになっている、それが本当にすばらしいことだと思います。

ただ、まだまだ私たちの手が及ばず、家族にすら理解されず、非常な不安と孤独の中で時間をすごしておられる認知症の方々の数が多い。そしてこれからも認知症の方はどんどん増えていきます。この運動のうねりは一つ大きな山になってきておりますが、まだまだこれから、もう一つ、もう二つ、大きなうねりにして、全ての人をその人らしく支え、その人らしくつきあい、それによってその人らしく生きることができる社会にしていく必要があろうと思います。一平さんじゃありませんが、ゆっくりと、しかし、たゆむことなく皆の力をあわせていきたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

3. 全応募者への応援メッセージ

（地域活動推薦委員より、五十音順、敬称略）

認知症対応の地域活動は、着実に進んでいます。サポーターの養成は、いろんな組織が取り組み、小・中学生のサポーターも現れました。

地域の理解が進むと、認知症の人々も地域に出やすくなり、自分の思いを話すようになります。すると、地域の人々の理解は、認知症一般の理解から、認知症になったＡさん、Ｂさんというように、個々の人の理解へと進みます。そして、それぞれの人の能力を生かして、誰もが住みやすい社会にしようという方向に、地域は動きはじめるのです。そこでは、認知症の人だけでなく、困っている人、助けがほしい人、誰かの役に立ちたい人、誰かと交わりたい人など、いろんな人が集う、あたたかい社会が出来ていきます。

応募されたすべての方が、自分の思いを生かして、いいと思うやり方で取り組んでおられます。それが、やがて大きな流れとなり、山をも動かす強い力になろうとしているという予感がします。

堀田 力／財団法人 さわやか福祉財団 理事長・弁護士

認知症の支援は、とことん“明日は我が身”で本人と共にどうあるべきかを一緒に考え、つくっていくことだと思っています。皆さんのとりくみからあらためて“共につくっていこう”という姿勢をよみとることができ、勇気づけられました。

現在、私は身よりがなかったり家族からの適切な支援を受けられない方に関らせていただいています。認知症でも、家族がいなくても（こういう方々は今後もっともっと増えるでしょうから）、住み慣れた町でずっと暮らせることができるように、各々の町でもっともっと考え創意工夫をしていきたいものです。

みなさんのとりくみが他の地域の参考になり、また他の町のものもとり入れて競争で「認知症でもだいじょうぶ」な町を点ではなく日本全国に広げてまいりましょう！

池田 恵利子／いけだ後見支援ネット 代表

年をとったり病気になったりしても、社会とつながっていたい。できる限り、自分で生活がしたい。できれば、ほんの少しでいいから、誰かの役に立てる自分でいたい。贅沢は望まないが、まずいモノは食べたくない。民謡も演歌も歌謡曲もいらないから、オペラのアリアはいつも聞いていたい。時々は、シャンソンやフォークソングもいいかも。見た目は美しく、というのは無理と分かっているけど、そこそこは装っていたい。孫でもない人から「おばあちゃん」とは呼ばれたくないが、若い世代と接することで刺激は受けていたい……こんなわがままな私が認知症になっても大丈夫？

そんな問いに、全国各地で様々な工夫をしておられる方々が、町づくりキャンペーンへの応募を通して「大丈夫！」と答えて下さいました。皆様方の取り組みは、多くの人たちの安心と希望の源。それがもっと広がり、もっと細やかに行われ、継続し、進化していきますように。

江川 紹子／ジャーナリスト

認知症の人や介護家族をとり巻くあたたかい輪が大きく、ひろく深くひろがっていることをとても嬉しく思います。何よりも多くの試みが、認知症への正しい理解であり、認知症の人の心にそう取組み、「してあげる」ではなく、共に歩もうとする前向きな活動「ケア・サポーター」から「ケア・パートナー」への方向が明確なことです。

特に若年性認知症の人を中心とした就労活動や本人同志の交流の取組みが、多様な角度からの取組みがされていることを嬉しく思います。

全国各地の取組みのひとつひとつがつながって、「認知症があっても安心して暮らせる社会」の実現に一歩近づく。小さな活動であっても、地道な取組みは地域を少しずつ変えていく。そのことが「認知症でもだいじょうぶ」な町をつくる。認知症という病気への差別や偏見がなくなること。認知症の人が安心して暮らせる社会は障がいや弱い立場の人のみならず、今は元気な私たちにとっても思いやりのあるやさしいふれあいのある社会になり、活動する私たち自身がいきいきと躍動できる社会ですね。

勝田 登志子／社団法人 認知症の人と家族の会 副代表理事

全国各地の取り組み状況を拝見させていただき、最も強く印象に残ったのは、取り組まれている方々の立場や職業、その取り組みの内容が、非常に多様性に富んでいるということです。

私たちが住む町は、多様な「人」の集まりで形作られています。認知症の方もその多様な「人」のひとりです。したがって、その人たちの生活や必要な支援を考えるとき、様々な立場や職業の人が関わり、多種多彩な取り組みが生まれることは当然のことなのかもしれません。逆に言えば、色々な角度からのアプローチがなければ、「認知症でもだいじょうぶ」な町づくりは前進しないということだと思います。

今後も、「認知症でもだいじょうぶ」な町づくりに向けた素晴らしい取り組みが全国に広がり、そして、深く根付いていくことを期待しています。

北橋 健治／福岡県北九州市 市長

日本全体が元気がない中で、町づくりキャンペーンへ応募された方々の取り組みは、表彰されなかった事例を含めて、本当に知恵やエネルギーに圧倒されます。

この数年で、認知症高齢者の方々への理解や取り組みは大きく前進しました。
認知症になっても地域に住み続けることが、当たり前にできる社会を目標に、さらにパワーアップしていきたいものです。

児玉 桂子／日本社会事業大学 教授

皆さんの活動報告を読み、大きな箱にたくさんの原石がつまっているという感じをもちました。この原石はすごいぞとわくわくする思いで読みました。活動報告という名の原石の、なんという多様な輝きでしょう。

そういってはなんですが、どれを選ぶか、目移りがして仕方ありませんでした。よく磨かれていて、すでにすばらしい輝きを放っている活動報告もあれば、まだ十分に磨かれてはいないが、磨き方しだいでまばゆい宝石になると思える報告もありました。一つの報告書の背景には、その活動を支える実にたくさんの志がある、ということも実感として伝わってきました。

「外国籍の子と認知症高齢者とのアートコミュニケーション」などという私などの想像もおよばぬ活動がある。「若年性認知症」の方がたがいきいきと生きられる居場所や仕事を、というきわめて緊急な課題に取り組んでおられるチームもある。地域にとって、やや浮いた存在だった「オヤジ」の潜在力に目をつけ、「オヤジよ、地域を変える原動力になろうよ」という活動をはじめている組織もある。認知症の方がたの「就労支援」という地味な活動に取り組んでいるグループもあれば、「見守り支援」を成功させている組織もある。目を見張るばかりの独自性。じんわりと伝わってくる熱い思い。報告の一つ一つが、学ぶことの多い貴重な原石でした。推薦委員の一人として、「認知症でもだいじょうぶ」キャンペーン活動報告にたずさわっているすべての人びとに感謝せねばなりません。

辰濃 和男／日本エッセイスト・クラブ 理事長

そこここで地域の表舞台に

今年も魅力的なとりくみがたくさん寄せられた。特徴点を一口で表すとすれば、抜きん出た実践というよりは、一定の水準の実践が確実に広がっているという印象である。いずれも独創性に富み、まずは応募されたすべての関係者に心からの拍手を送りたい。

心に残ったことをいくつか記してみたい。第一にあげられるのが、認知症にある人自身の積極的な姿勢である。地域の表舞台への当事者の登場が格段にひろがっている。認知症に対する理解を深めていく上で、これ以上の方法はなかろう。

第二は、学校教育とのつながりが増えていることである。明日を担う中学生などとのつながりは、未来に向かってかけがえのないヒューマン財産を形成しているように思う。第三は、実践に深まりがみられることである。例えば、集いの場づくりからもう一歩進んで就労とか創作活動の結果を商品化につなげる取り組みで、個々のニーズへの接近が感じられる。

“認知症でも大丈夫”、このことをそれぞれの地域で、そしてそれぞれの方法でもっともっと発展してほしい。寄せられた各地の実践が、その牽引車になっていただくことを願ってやまない。

藤井 克徳／きょうされん 代表

「認知症になったらどうしよう」高齢者は思い、「認知症になったら大変！」と家族は考える。「認知症でもだいじょうぶ」っていくら言われてもそんなのなってみなくちゃわからないでしょ、と人々の心の中には不安と怯えが共振して膨れあがるばかりだ。

確かに最新の医療と介護は「認知症でもだいじょうぶ」の時代の扉を大きく開いた。今度は私達が「認知症でもだいじょうぶ」にしていこうと声をあげ行動する番だ。報告はどれもそんな決意に満ちている。報告には共通点がある。そこに登場するのは認知症患者ではない。向いのヨシダのおじいちゃんであり、お隣りのヨシエおばあちゃんだ。誰もに顔と名前があり、くらしの歴史をになう地域の一員である。その声を聞き、くらしを見つめることから活動は始まる。もうひとつの特長は地域特性。山間部から大都市まで活動は今一度、地域を見直す作業でもある。地域の良さ、課題をきめ細かく点検している。

そしてそこに多くの地域の人々がなだれ込むようにして参加している。主婦に商店主、行政者、そして子ども達。

地域の多彩な人々が手をつなぎ、ふと気がつくと当然のように、そこに認知症の人々も加わっている。「あれ。私達、認知症の人を支えるはずだったでしょ」

そうなのだ。気がつくと、活動はいつの間にか「認知症の人とともに」地域のくらしを支える活動に進化している。

「認知症でもだいじょうぶ」それは、地域の人々全て、働きざかりの人、子育ての母親、子ども達、そして高齢者誰にとっても「だいじょうぶ」な地域にしていくことなのだ。

町永 俊雄／NHKキャスター

２００８年「介護保険推進全国サミット」を開催した茨城県東海村の村長です。この関係で推薦委員に選ばれた者ですので本来皆さまの活動を評価する立場にはございません。分も弁えず忸怩たる思いでこの文を書いております。そこで論評はさて置き感想を記させて戴きます。

第一点は、この日本において認知症への理解と支援活動が確実に急速に広まり向上している驚きです。しかもこの２、３年の短期間に。今年は昨年にもまして優れた活動が応募されていたというのが正直な感想で選定に苦労しました。立場上行政との協働、行政での応用という２つの観点から推薦させてもらいました。

第二は福祉の分野においての日本人の優れた資質を感じさせてもらいました。日本人は個人としてよりは集団として、より強い力を発揮すると言われますが、このことが福祉の分野で効力を発揮されているのではないか。どの応募においても素晴らしいグループ活動の模範例が提示されていました。この点は認知症介護では特に重要な点であり、皆さまの活動を知ることで行政に携わる者として勇気と確信を与えられました。

皆さま方の更なるご活躍・発展をお祈り申し上げます。

村上 達也／茨城県東海村 村長

認知症サポーター養成を、小中学生にまで広げていることで知られる福井県若狭町。この町ではまた「認知症一行詩コンクール」を行なっています。今年度で３回目。これまでは若狭町内だけが対象でしたが、初めて、全国から募集しました。町の予想をはるかに超える４，１７２点、２，３１４人から応募がありました。作品は頭で考えたものではなく、どれも「そうだろうなあ」と、読む側も実感できるものばかり。そしてすべてに家族の愛情が感じられます。「いつも優しくできなくてごめんね」。中学２年生の作品です。認知症への取り組みは、どんな人をも温かく受け入れることができる懐の深い町に、そして人の心を変えていきます。

村田 幸子／福祉ジャーナリスト

どの応募内容も素晴らしいものでした。まさしく甲乙つけがたいものでした。お訪ねもせずお話も聞かず選ぶことは心苦しいものがありました。

どの内容も「認知症でもだいじょうぶな町づくり」となっていますが人間へのやさしさがあふれていました。特に最近まざって暮らす能力が消えかかっており、人間関係で悩んでおられる人達が日本中にあふれています。そんな中で辛抱強く、しかもマメに目の前の一人ずつから思いを悟り、ネットワークをつくり気の遠くなるような活動をされておられます。

多分、「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーンを通じて、この閉塞感のある社会を考える新しい価値観をうむ原動力になっておられるのではないでしょうか。

吉田 一平／ゴジカラ村 代表

II.「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン２００８へ

全国から寄せられた活動一覧

1. 全国から寄せられた地域活動 応募一覧

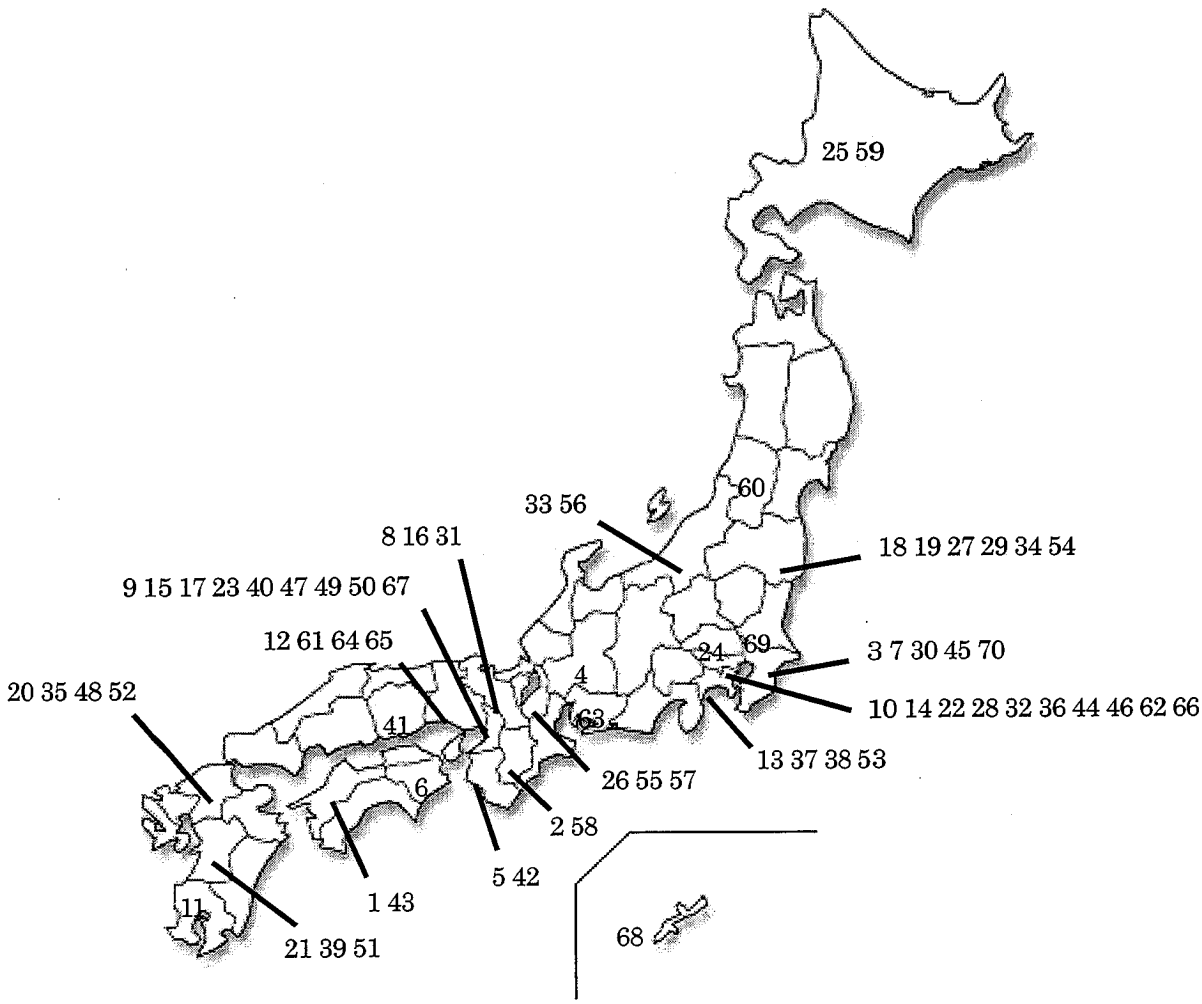
※「町づくり2008モデル」受賞団体

No.	活動名称	応募者名称	都道府県	掲載頁
1	この町で普段の暮らしを続けたいな	縁側プロジェクト	愛媛県	113
2	地域へのかかわり方を見直そう！！職員・入居者としてではなく"地域住民"として	有限会社 プランニングフォー 認知症高齢者グループホーム「古都の家 学園前」	奈良県	114
3	学幸へ行こう会 幸齢者いきいき体操クラブ ～住み慣れた地域で、我が家で安心して暮らすには～	社会福祉法人 勝曼会 あすみの丘在宅介護支援センター	千葉県	115
4	外国籍の子と認知高齢者とのアートコミュニケーションの取り組み	多文化共生施設 DOREMI みらい	岐阜県	116
5	アニマルセラピー活動	NPO リトルハンド	和歌山県	117
6	認知症の老人と共に生きる「後世への最大遺物」ー幼老共生社会の復権・復活を目指してー	世代間交流まちづくり「回想法」・校舎の無い学校	徳島県	118
7	居場所づくりー長洲カフェーの試み	誰でも安心して暮らせる地域福祉の会	千葉県	119
8	安心を築く力＋子どもの感性＝将来につながる力	うえすぎ松寿苑デイサービスセンター	京都府	120
9	認知症を理解してもらい、地域で生き生き生活	医療法人 千輝会 グループホーム神田イン国分	大阪府	121
10	顔の見える関係づくり・歩いていけるところに茶話会を	澪の会	東京都	122
11	認知症教育を通した人づくり・町づくり	鹿児島純心女子大学 やさしさの網の目推進委員会	鹿児島県	123
12	創作劇「地域で支えよう！本当に知っていますか、認知症のこと」とシンポジウム	神戸親和女子大学 発達教育学部 福祉臨床学科	兵庫県	124
13	仲間と共に、若年認知症をイキイキと！	若年認知症グループ どんどん	神奈川県	※
14	東五のひろば	青梅市東青梅五丁目	東京都	125
15	認知症のことを相談できる場所を知ってもらおう！！＜地域交流学習会ー在宅介護支援センターと地域住民とのネットワーク作りー＞	社会福祉法人 白寿会 玉出地域在宅サービスステーション	大阪府	126
16	シルバー110番 地域認知症無料相談所	社会福祉法人 未生会 グループホームちくりんえん	京都府	127
17	先生の異業種体験から生徒の職場体験と共に育つ地域福祉活動	グループホームはるすのお家・阪南	大阪府	128
18	社会福祉法人がすすめるまちづくり～認知症の理解者を増やそう～	社会福祉法人 ライフ・タイム・福島	福島県	129
19	「地域と認知症の人」から「地域の中の認知症の人」へ向けて	社会福祉法人 ライフ・タイム・福島 ライフ吉井田小規模多機能型居宅介護事業所	福島県	130
20	これからの地域を支える近隣型助けあい活動	おとなりさんネットワーク「えん」	福岡県	131
21	公立中学校の空き教室・花壇を住民と中学生が協働作業を通して認知症を正しく理解する	社会福祉法人 リデルライトホーム	熊本県	※
22	大都市における認知症介護家族の現状と求めているもの	社会福祉法人 浴風会 ケアスクール	東京都	132
23	認知症について考える会（だいじょうぶネット）	東住吉区東田辺地域ネットワーク委員会	大阪府	133
24	認知症のある人の福祉機器展示館	国立障害者リハビリテーションセンター研究所	埼玉県	134
25	認知症サポーター養成講座の開催推進	コープさっぽろ福祉活動交流支援センター	北海道	135
26	小・中学生認知症サポーターからのメッセージ	彦根市 介護福祉課	滋賀県	136
27	認知症に対する地域活動と妻の在宅介護（個人の講演活動）	南相馬市生涯学習アドバイザー・認知症の人と家族の会	福島県	137
28	ハッピーライフのご提案 認知症にやさしいまちづくり	認知症予防推進員の会 有楽ねりま ミニ講座グループ	東京都	138
29	鮫川村 認知症予防に向けて村民と行政が共に助け合う仕組みづくり	鮫川村役場住民福祉課・鮫川村地域包括支援センター	福島県	139
30	認知症メモリーウオーク・千葉	第２回 認知症メモリーウオーク・千葉実行委員会	千葉県	※

31	市民後見センターきょうと	NPO 法人　ユニバーサル・ケア	京都府	140
32	地域型認知症予防旅行プログラム 5 日間体験版「ボケない脳は旅で鍛える」	内閣府認証 NPO 法人　日本トラベルヘルパー協会	東京都	141
33	慣れ親しんだ地域で暮らし続ける～より地域に開かれたグループホームを目指して～	西脇　陽子	新潟県	142
34	大笹生地域の福島市立大笹生小学校 4 年生と当事業所利用者との世代間交流	医療法人　生愛会　附属介護老人保健施設　生愛会ナーシングケアセンター	福島県	143
35	認知症を理解することからはじめよう～できることから 1 つずつ～	みぢか　ネットワーク	福岡県	144
36	目黒たけのこ流・認知症ネットワーキング	目黒認知症家族会　たけのこ	東京都	※
37	今、伝えたい認知症～区民（認知症の人も！）で支えあう町づくり～	認知症サポート連絡会(横浜市都筑区)	神奈川県	145
38	あさがお協力隊の活動について	旭福祉保健センター　サービス課　高齢者支援担当	神奈川県	146
39	地域に根ざした多職種の人間による多角的な認知症支援	認知症の人と共にくらす会“きくち”	熊本県	147
40	親父パーティーが地域を変える！～認知症地域資源ネットワーク「NICE!藤井寺」の構築～	社会福祉法人　藤井寺市社会福祉協議会	大阪府	※
41	認知症　ささえあえるまちづくり事業	津山市地域包括支援センター	岡山県	148
42	であう・ふれあう・わかちあう　認知症の人の見守り支援「あんしんメイト」	NPO 法人　認知症サポートわかやま	和歌山県	※
43	地域のよさを見直し、地域を生かすケアの実践	社会福祉法人　久万高原町社会福祉協議会	愛媛県	149
44	認知症　予防と介護と支えあい～認知症にやさしい地域づくりを目指す～	「白い箱の会」	東京都	150
45	認知症を学び、知り、理解する ・認知症サポーター養成講座を周辺地域の町会を主に町内会館で開催 ・千葉メモリーウオークに参加 ・認知症の人やその家族との交流や懇親会	社会福祉法人　三育ライフ　シャローム若葉（地域包括支援センター「千葉市あんしんケアセンターシャローム若葉」、グループホーム「虹の家」、認知症対応型通所介護「ひばり」）	千葉県	151
46	認知症高齢者　就労支援デイの試み	社会福祉法人　創隣会　グループホームきずな	東京都	152
47	若年認知症支援の会「愛都の会」の活動	若年認知症支援の会「愛都の会」	大阪府	153
48	認知症にならないための活動	藤松まちづくり協議会	福岡県	154
49	回想法の取り組み	関西医大滝井病院認知症疾患医療センター	大阪府	155
50	子供は、みんなで守っていかないといけないんだ。～安全パトロール。継続は力なり～	NPO 法人　たんぽぽの会　グループホーム　やすらぎのさと	大阪府	156
51	あそびながらリハビリテーション～身体機能・認知機能の活性化を図る～	社会福祉法人　芦北町社会福祉協議会予防推進課「あそび Re（り）パーク」	熊本県	157
52	地域住民とともに行う認知症予防活動の実践	社会福祉法人　ふらて福祉会	福岡県	158
53	学習の継続と 3 本柱	認知症サポーターの会“かなざわささえ隊”	神奈川県	159
54	認知症高齢者に対する在宅支援事業	NPO 法人　福島県シルバーサービス振興会	福島県	160
55	認知症の方々から学ぶ暮らし方・生き方探し事業	特定非営利活動法人　ゆうらいふ	滋賀県	161
56	地域の声で始まった『認知症劇』	長岡市地域包括支援センター　なかじま	新潟県	162
57	「いつでも　いつまでも　きれいでいたい」ヘアーメイク、ハンドマッサージ等の体験により笑顔全開、気分リフレッシュ	NPO 法人　日本理美容福祉協会　滋賀米原センター	滋賀県	163
58	「朱雀の会　若年認知症家族会」の活動	朱雀の会　若年認知症家族会	奈良県	164
59	認知症支援ネットワーク構築事業	社会福祉法人　上士幌町社会福祉協議会	北海道	165
60	山形市介護相談員派遣事業	山形市介護相談員（山形県山形市健康福祉部介護福祉課）	山形県	166

61	ふれあい・いきいき・サロンと認知症をもつ人を支える仕組みづくり	近畿大学豊岡短期大学通信教育部 社会福祉士養成課程	兵庫県	167
62	いくつになっても“イキイキ”とー「安心・快適・満足」の美容サロンが地域のセーフティネットにー	東京都美容生活衛生同業組合	東京都	168
63	認知症地域支援体制構築等推進事業「地域資源マップ」の作成	東郷町地域包括支援センター	愛知県	169
64	「共生ステーションめいまい」の活動	共生ステーションめいまい	兵庫県	170
65	若年認知症の方を支える講演会活動～一人の方の思いを形にすることで広がった地域作りの事例～	認知症の方の暮らしを考える会	兵庫県	171
66	めざせ 徘徊フリーゾーンー人間関係が希薄な都会で認知症を支えるー	医療法人社団つくしんぼ会	東京都	172
67	～build a bridge～心につなぐ橋渡し	玉本 あゆみ	大阪府	173
68	地域と共に歩む老人ホームを目指して	社会福祉法人 ゆうなの会 特別養護老人ホーム大名	沖縄県	※
69	小地域の公共施設を利用した「高齢者の出前居場所作り」事業	特定非営利活動法人 ふれあい坂下	茨城県	174
70	思い出ミュージアムで“なじみ”の場づくり～総泉病院 思い出療法	総泉病院 ウェルエイジングセンター	千葉県	175

※「町づくり2008モデル」受賞団体の応募資料は、P.18～の「4. 町づくり2008モデル活動報告」を参照

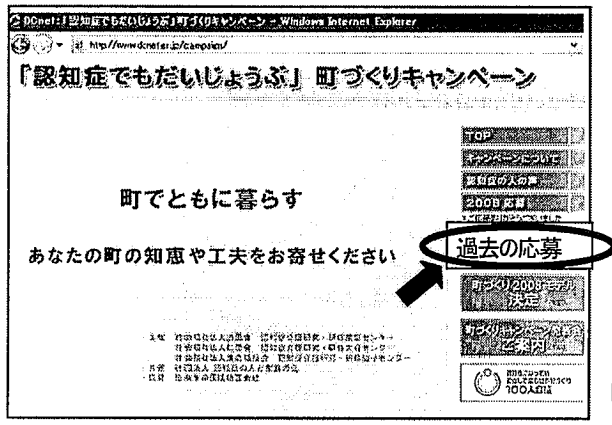


2. 各地域報告の情報データベース（町づくりキャンペーンホームページ）の紹介

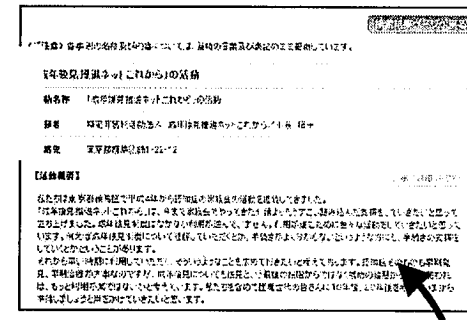
町づくりのさまざまな取り組みがご覧いただけます。

URL　http://www.dcnet.gr.jp/campaign/

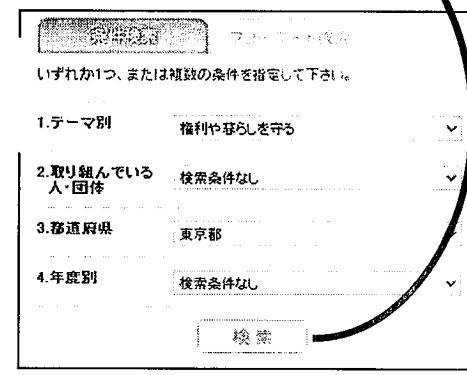
または「町づくりキャンペーン」で検索してください



町づくりの取り組みをご覧頂けます。



町づくりの取り組みを検索頂けます。



※平成１９年度から始まった「認知症地域支援体制構築等推進事業」の全国の担当部署へ本資料をひきつづき提供させていただきました。

3.「町づくり2008モデル」一覧

（応募先着順）

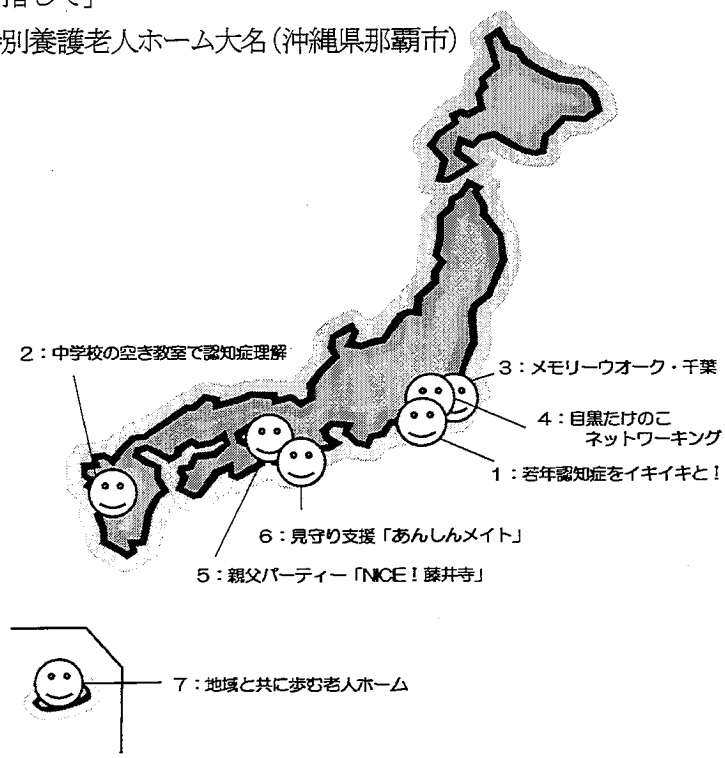
1 「仲間と共に、若年認知症をイキイキと！」
若年認知症グループ　どんどん（神奈川県川崎市）

2 「公立中学校の空き教室・花壇を住民と中学生が協働作業を通して認知症を正しく理解する」
社会福祉法人　リデルライトホーム（熊本県熊本市）

3 「認知症メモリーウオーク・千葉」
第2回　認知症メモリーウオーク・千葉実行委員会（千葉県）

4 「目黒たけのこ流・認知症ネットワーキング」
目黒認知症家族会　たけのこ（東京都目黒区）

5 「親父パーティーが地域を変える！
～認知症地域資源ネットワーク『ＮＩＣＥ！藤井寺』の構築～」
社会福祉法人　藤井寺市社会福祉協議会（大阪府藤井寺市）

6 「であう・ふれあう・わかちあう　認知症の人の見守り支援『あんしんメイト』」
NPO法人　認知症サポートわかやま（和歌山県和歌山市）

7 「地域と共に歩む老人ホームを目指して」
社会福祉法人　ゆうなの会　特別養護老人ホーム大名（沖縄県那覇市）